

# 社会科学習指導案

日 時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
 児 童 〇〇区立〇〇小学校 〇年〇組 〇名  
 場 所 〇年〇組教室  
 授業者 文教太郎  
 指導者 教諭 吾妻京子

## ●単元名について

単元名は、このように子どもたちにとらえさせたいことを端的に表現したものにしましょう。もっと、自分の主張を出して「お店の人ってすごいなあ！」という単元名にすることも可能です。

## ●評価規準

評価規準は単元目標をさらに細分化し、具体的にしたものと考えと書きやすくなります。

## ●評価基準

評価規準とセットで出されたものに評価基準というものがあります。その二つを区別するために前者を「のりじゅん」、後者を「もとじゅん」と呼ぶ人もいます。

この指導案には「もとじゅん」は示していませんが、「のりじゅん」をさらに具体的に、実際に評価を行うための視点が「もとじゅん」だと考えてください。

## 1. 単元名 「お店の人のしごととわたしたちの暮らし」

### 2. 単元目標と評価

#### (1) 目標

商店やスーパーマーケットでは消費者の願いにこたえた販売の工夫をしていることを理解するとともに、自分たちの地域が消費生活を通して他地域とつながっていることを知る。またそれぞれの店の良さを知り、地域に愛着をもち、消費者として賢く買い物ができるようにする。

#### (2) 評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断、表現	ウ 観察・資料活用	エ 知識・理解
○自分たちの生活と地域のお店との結びつきに関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことを通じて、地域の店を利用していこうという協力的な態度・地域への愛着が見られる。	○消費者の願い、生産者の工夫、両者が合致してこそ人気のお店になると、判断できる。 ○地域のお店の工夫や努力を知り、自分が消費者としてどのように利用すればよいか判断できる。 ○上記をノートにまとめられる。	○お店の様子を一定の視点から観察できる。 ○お店の人の工夫や願いを聞き取りで調べることができる。 ○調べたことを自分なりに整理して発表したり、ノートにまとめることができる。	○消費者として、賢く買い物ができる。 ○商店に置かれているものは他地域から運ばれていることから、他地域とのつながりがあることを知る。 ○消費者の工夫・お店の工夫・はたらく人々の工夫や努力がわかる。

### 3. 単元について

本単元は、第三学年学習指導要領の「内容ア（２）地域の販売について見学したり調査したりして仕事に携わる人々の工夫を考える」を受けて設定したものである。したがって、学習事項として次の二つは不可欠なものである。

- ・お店で働く人の仕事上の工夫・努力の理解
- ・商店街やスーパー、コンビニなどの見学やそこで働く人からの聞き取り

また、目標「（１）地域社会の様子について理解し、地域社会の一員としての自覚をもつようにする」を意識するなら

- ・「地域の店を利用していこうという協力的な態度・地域への愛着」の育成も落とすことはできない。

これら三つを意識して、単元目標とその評価規準を作成した。

社会科は３年生になってはじめて学ぶ教科である。４月～５月にかけて、子どもたちは芝浦探検を行った。そのときには、お店を含みさまざまな建物に関心をもち、建物のかたち・建設年・利用状況を調べるとともに、学校から見た場合どの方位にあるのかを学んだ。またなぜ、駅の近くに飲食店をはじめとして様々なお店が多いのかについても学習した。

しかし、それぞれのお店の工夫など、目に見えない事象については全く理解していない。このことは、プレテストに対する答えからも窺われた。プレテストでみると、子どもたちは日ごろから親の買い物によくついていっているため、お店の場所やそれぞれのお店が何を売っているのかについてよく知っている。また自分が興味を持っているゲーム機などの商品を売っているお店の商品配列についてもよく知っている子どもも数人いる。

だが、そうした商品配列が商品を売れやすくするための工夫だということには全く気づいていない。３年生のこの時期では、一部の子どもを除いて具体的なものを示さない限り、お店の人がしていることを「工夫」や「努力」というように考えられないであろう。そこで、実際に子どもたちにお店を見学させるだけではなく、教師の方で自作のDVD教材を作成しておき、それを見せながら、商品配列などお店の人たちの工夫や努力に気づかせるようにしたい。具体物を示さないと思考できない段階の児童が本学級の大部分を占めている。

#### ●「単元について」に書くこと

実習校によって指導されることが違うかもしれませんが、最低、次の四つは入れたいものです。

##### 1) 学習指導要領とのつながり

教員である以上、学習指導要領を無視することはできません。指導しようと思っている単元の学習内容として学習指導要領がどんなことを示しているかはきちんと把握しましょう。

##### 2) 教育内容と教材について

子どもたちに教えようとすること（教育内容）について、教師自身が何をどこまで理解しているかを書きます。

また、その教育内容のためになぜ或るモノ・コトを教材として選んだかについても書く必要があります。たとえば、封建時代の身分制について教えたいと思ったら、教師がどれだけそれをきちんと把握しているか（教育内容の理解）を簡潔に書くとともに、なぜ（たとえば教材として）日光の東照宮でなく、学区にある庄屋屋敷を選んだかについても書きます（教材選定の理由）。

##### 3) 児童の実態

元気だ、よく手があがるなど単元の指導内容と余り関係のないことを書いても意味がありません。これから学習しようとしていることについての「児童の実態」を書くものです。ですから、次の四つ

を書きましょう。

- ・これまでどんなことを学んできたのか（既習事項）
- ・発達段階はどうか（たとえば、因果関係を考えさせられない年頃もあるのです）
- ・どんな生活経験をしているのか（学校で学んでいなくても知っていることもあるのです）
- ・だからどんな点に留意してどんな風に指導するのか、あるいは自作教材を作成するのか等（指導観）

#### 4) 単元の系統

これを把握しておくことは、既習事項をつかむためにも、また教えずぎないためにも必要です。

### ●単元の指導計画について

暗記社会科、講義型社会科授業にしないために、1単元1サイクル、あるいは1小単元1サイクルで、指導計画をつくるという手法がよくとられます。

1サイクルとは、次のようなものです(基本であってバリエーションもあります)。

事象提示（これから学習させようということに対する“？”を、いっぱい持たせる＝興味・関心の惹起）→課題把握→[予想＝課題として示されたことについて仮説を立てさせますが、いきなり次の調べに入る指導過程をとるものもあ

また単にお店で働く人たちの「工夫・努力」をとらえさせることでよしとせず、そうした「工夫・努力」の底にあるお店で働く人たちの心情、すなわち「働き甲斐」や「職業に対する誇り」に触れさせたい。そこで今回は実際にお店で働く人たちにインタビューを行わせるだけでなく、商店会長さんをゲストチャーとして招き、次のようなお話をしてもらうことにした。

- ・お客が来やすく、買いやすい商店街にするためにどんな工夫をしているか
- ・なぜそうした工夫や努力をするのか
- ・〇〇商店会の自慢は何か

子どもたちの人格形成という面からいうなら、教師として何人かの子どもたちの消費性向について問題を感じている。しかし、社会科の指導とするために、儉約・節約などの徳目を注入するというをせずに、家族のために賢い消費者として行動しようとしている親たちの姿から自分たちの華美を迫る傾向について反省させていきたい。そこで消費者として親がどれだけ無駄なく・良いものを家族のために買い整えているかについて学ばせたい。具体的には各家庭で、買い物をするときどんなことに気をつけているかを調べさせ、それを発表させる中で親たちが共通に気をつけているものは何かに気づかせるようにしたい。具体的に述べるなら、親たちはスーパーの安売りの日を選んで買い物に出かけているし、同じ商品を買う場合でも安売りをしているスーパーを選んでいくものであり、それによって家計をやりくりしているのだということに気づかせたい。

他地域とのつながりについては、一週間に幾つの県や国のものを食べたのかという調査課題を行わせることを通して学ばせる。本学級の子どもたちはこういう活動は初めてであるから、朝の会で毎日数人の子どもに「前の日は幾つの県や国のものを食べた？」と聞くことを行っていく。また、給食については、教師の方があらかじめ調べて配膳終了後に「本日の他県さ～ん、いらっしやい！」タイムで子どもたちに産地を示したい。こうした活動が興味を持って継続されるように、日本地図を教室内に掲示し、そこに野菜の絵を貼りつけていくようにする。

以上をふまえた上で、次のような単元の指導計画を立てた。

#### 4. 指導計画（20時間扱い 4時間総合）

次	時 数	主な学習活動	各時間の評価規準
1	1	○自分の町のはたらく人々に興味をもつ ・春に作った「芝浦マップ」をもとにお店の場所を把握する。 ・各自、お気に入りの店の好きなどころ・いいところを見つける（消費者としての視点）	ア 自分たちの生活と地域のお店との結びつきに関心をもつ。 (※評価基準の例) A：発表のため自主的に再度調べ直し、ノートに丁寧にまとめ直した。 B：調べ直したが、まとめ方が丁寧でない。 C：以前の調査のみ。 D：調査に行かなかった
	2 3	○消費者の工夫 家の人たちがどのような理由でその店を利用しているのかを知る。他の店との比較などから各店の良さを知る。 ・宿題のカード（※1）をもとに話し合う（地域のどこのお店をどのような理由で利用しているのか） ○賢い消費者になろう ・消費者として気をつけていること、失敗してしまったこと、消費者のお店に対する願いを知る（結果をクラス全体でまとめる）	イ 消費者の立場に立って考えることができる。 ア 意欲的に学習に取り組み、地域への愛着が見られるようになった。 エ 消費者として、賢く買い物ができる。
	4 本 時	○スーパーマーケットについて知ろう ・消費者として教師が用意したスーパーマーケットのビデオを見てスーパーマ	イ 消費者の願い、生産者の工夫、両者の立場があつて人気のお店になること、またそれぞれの立場に立って考えることができる。

※（単元の指導計画については、以下省略）

#### ●単元の指導計画について

暗記社会科、講義型社会科授業にしないために、1単元1サイクル、あるいは1小単元1サイクルで、指導計画をつくるという手法がよくとられます。

1サイクルとは、次のようなものです(基本であつてバリエーションもあります)。

事象提示（これから学習させようということに対する“？”を、いっばい持たせる＝興味・関心の惹起）→課題把握→[予想＝課題として示されたことについて仮説を立てさせますが、いきなり次の調べに入る指導過程をとるものもあります；思考力をみることができます]→調べ（資料活用力を養うところであり、また評価するところになります）→まとめ（知識の定着を図ります；思考力や判断力を育成することも可能です）

## 5. 本時の学習（ 4 / 20 時間目）

### （1）本時の目標

- ・消費者・生産者それぞれの立場から、消費者の願いをもとに生産者が工夫することで、人気のお店になることを理解する。
- ・消費者の工夫・お店の工夫・はたらく人の工夫や努力がわかる。

### （2）評価規準

- ・消費者の願いをかなえようと生産者が工夫することで 人気のお店になることが理解できたか。（イ 思考・判断）
- ・消費者の工夫、お店の工夫、はたらく人たちの工夫や努力がわかったか。（エ 知識・理解）

### （3）準備

- ・スーパーマーケットで働く人たちの工夫がわかるビデオ（教育番組を録画したもの）
- ・消費者と生産者のイラスト
- ・スーパーマーケットで働く人たちの写真
- ・資料①（クラスにおける店の利用グラフ）
- ・資料②（町の店の一日の利用者数グラフ）
- ・資料③（家の人の願いグラフ）

### （4）展開

過程 (時配)	教師の指導	児童の活動	☆指導上の留意点 ★評価
事 象 提 示 (8分)	○前時までの振り返りを行う。 「みんなのおうちの人はお店で買い物をするときに、どんなねがいをもっていましたか。」	○前時までの振り返りをする。(購入者の願い) 資料③  ・安全な品物をそろえてほしい ・産地を知らせてほしい ・新鮮な品物を買いたい ・安く買いたい ・種類が豊富だと嬉しい	☆前時までのおさらいを、前時に用いた掲示物で行う。授業の最後につながるため、黒板に貼ったままにしておく。

### ●本時の展開について

- 1) シナリオを書くように書きましよう。つまり、教師の発問や指示、説明などはすべてセリフだと思って、そのまま書きましよう。  
また、「～～を板書する」といった教師の行動についての記述はト書きだと思って書きましよう。
- 2) 「児童の活動」に書く子どもの反応は、次の3つの種類に分けられます。「授業進行のために、絶対出て来てほしい発言」、「出て来ては困る発言」、「出て来るだろうと思われる発言」
- 3) そこで、指導上の留意点には

「絶対に出て来てほしい発言」が出て来ないときはどうか、「出て来てほしくない発言」が出て来たときはどうかといった手立てを書くことになります。

4) 指導上の留意点にはその他にどんな資料を何のために、どこに掲示する、あるいはどういうタイミングで、どんなふうに提示するのか（一度に全部見せるのか、だんだんに見せていく）なども書いておく方が、授業の時に困りません。

### ●課題について

学習指導要領にしたがって社会科の授業の課題を作ると「〇〇で働いている人たちはどんな工夫や努力をして仕事をしているのだろう。」「そうした工夫や努力の底にある願いや思いは何だろう」というものになります。しかし、これではあまりに直接過ぎて子どもたちの学習意欲を引き出さないと考えたのでしょう。多くの授業がこのように「〇〇の秘密をさぐるう」というものになっています。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題提示 (2分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時にまとめたクラスが利用する店の表を提示する</li> <li>「クラスではスーパーマーケットを利用する人が多かったですね」</li> <li>○事象提示</li> <li>・町の各店の利用者数を見せる</li> <li>「クラスだけでなく全体的に見ても、他のお店よりスーパーを利用する人が多いけど、それはなぜでしょう？」</li> <li>「では、スーパーマーケットの良いところって、どんなところですか？」</li> <li>○課題提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時にまとめたクラスが利用する店の表を確認する</li> <li>○事象との出会い</li> <li>・町の各店の利用者数を知る</li> <li>・品ぞろえがいい</li> <li>・一度にたくさんの種類を買えるから</li> <li>・安売りをするところ</li> <li>○課題を把握する</li> </ul>	<p>☆ (資料①)</p> <p>写真は一度に見せず、先ず右半分だけを見せ、隠れた部分で何が起きているのかを予想させる。</p> <p>☆ (資料②)</p> <p>品揃えのよさについて、子どもたちが気づかないときにはいろいろなチョコやせんべいなどが並んでいる棚の写真を見せる</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予想をたてさせる</li> <li>・個人で考えさせた後にグループで話し合い、発表させる</li> <li>「人気のある商品があるのかな」</li> <li>「売り方を工夫して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予想をたてる</li> <li>・個人で予想をたてた後にグループで話し合い発表する。</li> <li>「●●が人気あるよ。」</li> </ul>	<p>☆生活知識をもとに予想をたてるよう促す。</p>

スーパー文教が、町一番の人気店になったひみつは何だろう？

	<p>いるのかな」</p> <p>「ああ、そういうのがあるんだ。なるほど、合っているかもね。他にもよく売れる秘密を考えてみよう。面白い意見がいいな、出してみてください」</p>	<p>「そういえば、大声で道を通る人に～～がおいしいよと言ったり、試食させたりしていた」</p> <p>「早朝割引セールにお母さんは行くよ」</p> <p>「カードだ」</p> <p>「そうだ、お母さんが言った。文教で買うとポイントがつくって」</p> <p>「ポイント貯めると、商品が買えるんだよ」</p> <p>「そうだ、品物がいっぱいあるって言ってたよ。」</p>	<p>☆間違ってもいい、思いつくまま言ってみようという意欲を引き出すような投げかけをする。</p>
<p>追求解決 (20分)</p>	<p>「ではみんなが言ったことが合っているかどうか、お店の人に聞いてきたビデオを見せるね」</p> <div data-bbox="288 1624 965 1729" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スーパー文教の店長さんへのインタビュー (DVD) 視聴 (15分)</p> </div> <p>「予想は合ってた？」</p> <p>「まだ確かめられていないものは、みんな家で調べてきてください」</p>	<p>「合ってたけど、家の人に聞かないとわからないこともある」</p>	<p>☆家で調べて来ることをノートに書かせる</p>

後

略

●予想とその確かめについて

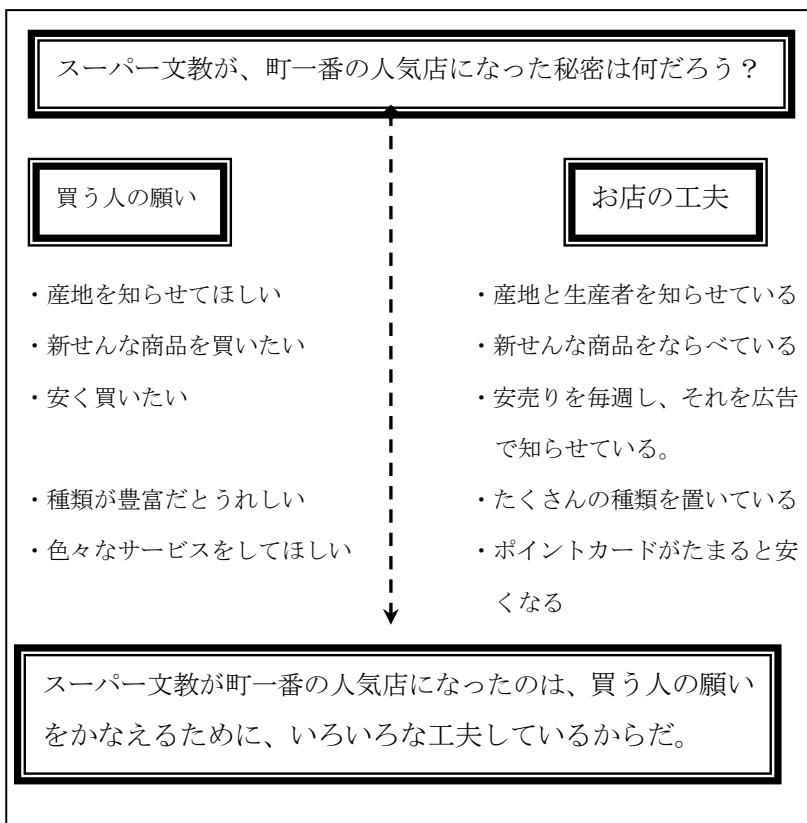
1時間で予想を立てさせ、その確かめを同じ時間の中で行うという授業を計画することもできます。そのためには、確かめのための資料をすべて、教師が授業前に準備する必要があります。

また、そのようなやり方ではなく、ここに示したように、教師が用意した資料では予想の半分は確かめられるが、あとの半分は子どもたち自身が動かないと確かめられないという授業の作り方をすることもできるのです。子どもたちの追求力を育てるために、両者を上手に混ぜ合わせて年間計画を作ることが大切なのです。教材に応じて、この単元は教師がすべて資料を用意する、あの単元は、子どもたちに追求させるステップを設けると考えながら、授業を作るのが楽しい、と言えるようになったら、職業人としてとても幸せなことだと思います。目指しましょう、授業のプロを！

●板書について

- 1) 1時間1板書が基本です。だから、途中で消したりしないようにします。
- 2) それは、授業が終わった時に板書をみれば、その時間にどんな課題で何を学んだかがわかり、かつ途中で出た子どもたちの発言も(一部でよいから)わかる、そして最後に何を学んだかがわかるようなものが好ましいからです。

(5) 板書計画

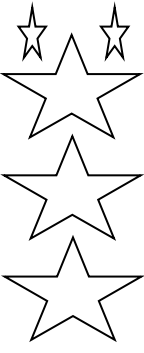
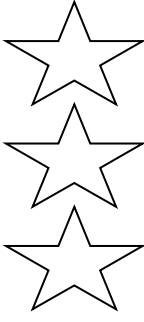
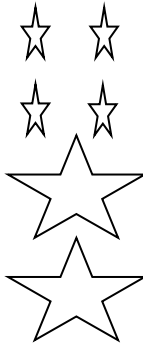
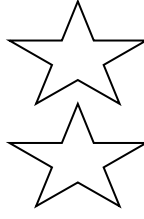



●資料について

小学校3年生に、いきなり棒グラフや折れ線グラフを使った資料は渡しません。もっと上の学年の算数で習ってから、そうした抽象的なグラフを使うようにします。3年生の始めの方では、こうした親しみやすい絵などを利用してグラフを作ります。

(6) 資料

資料① 3年1組の各店の利用者数(人)

				
パーコック (32)	となみや (30)	コンビニ (24)	八百トラ (20)	その他 (1)

大きい星は一つで10人、小さい星は一つが1人



